

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：14301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2022

課題番号：19K23003

研究課題名（和文）岩佐又兵衛の作品と伝記に関する総合的研究

研究課題名（英文）Study of Iwasa Matabei's Works and Biography

研究代表者

筒井 忠仁 (Tsutsui, Tadahito)

京都大学・文学研究科・准教授

研究者番号：20851322

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究においては、岩佐又兵衛及び松平忠直に関する江戸時代の伝承を精査するとともに、明治以降の研究史を丹念にたどり、伝承と史料的な事実を慎重に区別するよう努めた。次に、個々の作品のモチーフを観察し、そこに込められた作者の意図を分析し、作家の生い立ちとは別の制作背景を読み解くことを試みた。さらに、様式の分析から作品の制作年代を見直し、時代の動向と作品とを結びつける作業を行った。こうした作業により、これまでとは異なる作品理解を提示するとともに、今後の議論の前提となる様々な客観的事実を指摘したことが私の研究の成果である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、かつて浮世絵の祖と言われた岩佐又兵衛の伝記と作品を総合的に検証した。その結果、又兵衛と浮世絵とは、複雑な経路を辿って結びついており、単純に祖であるとは言えないが、無関係でもないことが明らかとなった。また、岩佐又兵衛が、雅なものを卑俗なものに変換するという、絵画史上における美学的な転換において重要な役割を果たしていることも判明した。江戸文化の特徴である雅俗融和の源流を探る上で、岩佐又兵衛が果たした重要な役割を明らかにした点で、本研究は学術上の意義を持つ。

研究成果の概要（英文）：In this research, I carefully examined the traditions of the Edo period regarding Iwasa Matabei and Matsudaira Tadanao, and carefully traced the history of research after the Meiji period, trying to carefully distinguish between tradition and historical facts. Next, I observed the motifs of each work, analyzed the artist's intentions contained therein, and tried to decipher the background of the artist's production, which is different from the artist's upbringing. In addition, I reviewed the production period of the works from the analysis of the style, and worked to connect the trends of the times and the works. The result of my research is that, I have been able to present a different understanding of the work and point out various objective facts that will serve as the basis for future discussions.

研究分野：日本美術史

キーワード：岩佐又兵衛 松平忠直 浮世絵 洛中洛外図 風俗画

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、十七世紀前半に京都、福井、江戸を活動の場とした絵師岩佐又兵衛（一五七八～一六五〇）について考察するものである。

岩佐又兵衛についてはこれまで様々な研究がなされてきたが、その作品を理解する手法は、彼の生い立ちから類推して作品を精神分析的に解釈するか、彼の有力な注文主の一人と推測される松平忠直（一五九五～一六五〇）の、伝説によって誇張された嗜虐的趣味から解釈することが主流であった。近年は、それらを踏まえて又兵衛の活動全体を「奇想」という概念で括り、作品及び画家像を規定する理解が定着していた。

### 2. 研究の目的

近世以前の作品を注文主の趣向から理解することは間違った方法ではなく、作家の生い立ちから作品を解釈することも必要な態度ではある。しかし、その前提となる生い立ちや趣味嗜好が歴史的な事実かどうか曖昧な場合、その作品理解は、不確定要素に満ちたものとなる。また、仮にそれらが検討に値する事実であったとしても、そこから得られる作品理解が、画家の特性の全体を映し出すとは限らない。そうした方法論からは一旦離れ、時代全体の動向を理解し、先入観を排して作品を眺めたなら、これまでとは違った又兵衛像が浮かび上がってくるのではないかと、そのように考えたことが本研究の出発点であり、新たな岩佐又兵衛理解を構築することが研究の目的であった。

### 3. 研究の方法

このような観点に基づき、研究は以下の順序で行った。まず、岩佐又兵衛に関するこれまでの研究史を概観した。又兵衛の研究史は、昭和初期のいわゆる「又兵衛論争」から説き起こすのが通例である。しかし、「又兵衛論争」の背景を考察するためには、近世に形成された多様な「又兵衛伝承」と、明治における又兵衛研究の多様な成果を理解しておく必要がある。というのも、近世の多様な「又兵衛伝承」が又兵衛の実像を曖昧にしたことで、隠された又兵衛の実像を探ろうとする明治の実証的研究が促されたのであり、その活発な議論の土台に作品の新発見が重なって、昭和の激しい論争が生じた経緯があるからである。特に明治の又兵衛研究がこれまであまり重視されなかったため、研究者の間でも多くの事実誤認が見られる。よって、近世における伝承を精査するとともに、明治以降の研究史をも丹念に辿り、現在に至る長い又兵衛研究史を通覧することとした。

次に、又兵衛の作品を個別に取り上げて考察した。彼の代表的な作品である、風俗画屏風や古浄瑠璃絵巻を中心に、作品と時代背景とのかかわりに重点を置くことで、従来とは違った作品の見方の提示を目指した。また彼の伝統的画題の作品についても取り上げ、過去の作品および同時代の絵画表現との差異に着目しながら、彼の新しい表現様式の抽出を目指した。

### 4. 研究成果

まず研究史の整理により、近世の又兵衛伝承が、浮世絵の隆盛と関連して肥大したイメージを作り上げていたこと、明治の新史料の出現により又兵衛研究が飛躍的に進んだこと、昭和の又兵衛論争が、かえって研究の停滞を招いたこと、戦後の研究は、昭和の論争に引きずられる形で進展したことを確認した。

次に、文献資料から、より総合的な又兵衛像の把握と作品理解を目指した。これまで、彼の来歴は子孫の家系に残された家譜から把握されていたが、近年は寛永諸家系図伝などを根拠とする提案がなされ、新たな論争を巻き起こしている。よって、現在知られている史料を改めて見直し、新しい史料を交えながら、より史実に近い又兵衛の出自について検討した。また、書状や紀行文の形で残された又兵衛自身の言動に考察を加えることで、彼の人間性における新たな一面を探ることを試みた。さらに作品の伝来についても史料からたどり、彼の作品、特に絵巻群がどのように伝来・受容されていったかを見ていった。それにより、絵巻群が松平忠直だけでなく、その妻勝子や子の光長によって受容されていったことを確認した。

個別作品については、又兵衛の風俗画の代表的作例である徳川本「豊国祭礼図」（徳川美術館）や舟木本「洛中洛外図」（東京国立博物館所蔵）の制作年代は再検討を要することを示唆した。

また、又兵衛が制作したいわゆる古浄瑠璃絵巻群は、装飾的、工芸的という評価を受けてきたが、それは一つ一つの事物を入念に描き出したことによる細部表現の積み重ねの結果であるこ

とを確認した。ただ、それらは内容や対象の意味に応じて使い分けがなされており、決してただ単に装飾表現を追求しただけではないことも明らかにした。「上瑠璃」にも古典絵画の引用が見られるが、それとともに、桃山百双などと呼ばれる同時代の多様な屏風を意識した図像も挿入されていた。また、すでに指摘されているように、慶長期に流行した歌謡の詞章が画中に書き込まれるなどしている。同時代の社会に目を向けると、古くは美麗・過差・バサラなどと呼称され、桃山期には「かぶく」などと表現された美意識が流行していた。家屋敷に美を尽くし、費用を度外視して出で立ちに贅を凝らす人々が持て囃されたのである。高価な顔料を惜しげもなく使って装飾の限りを尽くした「上瑠璃」はまさにこの時代の美意識と合致した作品と言える。

又兵衛の絵巻は、いずれも江戸初期に流行し始めた古浄瑠璃の詞章を詞書としている。人形を使ったこの芸能は、歌舞伎と並ぶ庶民の娯楽として、大きな人気を博した。舟木本「洛中洛外図」には、四条河原で古浄瑠璃「山中常盤」が上演されている風景が描かれており、人々が熱心に見入っている様子が見えがえる。図様、表現、題材、いずれの点からも、同時代の流行を取り入れた形で制作されたのが、これらの絵巻であったことが理解される。

「金谷屏風」と呼ばれた屏風に貼り込まれていた作品群についても考察した。「金谷屏風」は、明治期までは押絵貼り屏風として伝来したが、その後一扇ごとに切り離され、掛け軸として諸家に分蔵されている作品である。各作品の題材は源氏物語や老子出関など、日本と中国の故事説話を題材としたものであるため、これまでは、それぞれ伝統的画題の作品として個別に扱われてきた。しかし、屏風全体として捉えた時、和漢の故事を並べたことには意味を見出すことが可能である。江戸初期の文芸の動向を見ると、連歌とともに発展した和漢聯句が、桃山時代に入って飛躍的に隆盛したことが指摘されている。後陽成帝の宮廷で幾度も催されたことは、この文芸の隆盛と無縁ではないであろう。そこから『和漢雑詠』や『和漢歌合』など、和漢を題材とする様々な文芸が派生する。この時期、和漢の題材を並べて楽しむという趣向が一つの規範として浸透していったことは間違いない。又兵衛が様々な文芸を嗜んでいたことは、『廻国道之記』の本文の検討などから確認され、同時代の流行に敏感であったことは、絵巻作品の検討によって確認したところである。「金谷屏風」は、個別には古くからある画題の作品であるが、全体として見ると、和漢の故事人物が並置されているところに、この屏風の特徴がある。こうしたあり方は、和漢を趣向とする当時の文芸と無縁ではなく、「金谷屏風」は当時の先鋭的な文芸規範を元に制作されたものではないかと推測した。

以上の考察により見えてきたものは、絵画・文学いずれの古典に対しても教養を持ち、大名や貴族と交わり、注文主の意向を汲んで制作する画家としての姿であった。作品は、古典絵画の図様を巧みに取り入れるとともに、同時代の美意識に敏感に反応していた。そして、過剰な表現を追求し、それまで描かれていなかった題材を取り上げ、新しい図様を創出した。初期の浮世絵が、直接・間接に又兵衛の図様を受け継いでおり、その意味で次の時代に道を開いた画家としての岩佐又兵衛の姿が浮かび上がってきたと言える。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 筒井忠仁	4. 巻 610
2. 論文標題 岩佐又兵衛と浮世絵：伝承とイメージ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 哲学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 筒井忠仁	4. 巻 44
2. 論文標題 ヴィジュアルレトリック再考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術フォーラム 2 1	6. 最初と最後の頁 15-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 筒井忠仁	4. 巻 44
2. 論文標題 舟木本洛中洛外図のレトリック	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術フォーラム 2 1	6. 最初と最後の頁 30-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 筒井忠仁	4. 巻 42
2. 論文標題 松平忠直絵巻コレクション：将軍・大名の書画コレクションの一例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術フォーラム 2 1	6. 最初と最後の頁 48-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 筒井忠仁	4. 巻 1
2. 論文標題 「佐竹本三十六歌仙絵巻の伝来と模本制作 宮内庁模本を例として (研究ノート)」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『京都美術史学』	6. 最初と最後の頁 161 ~ 174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 筒井忠仁
2. 発表標題 Aodo Denzen and the Politics of European - influenced paintings in the 18th and 19th century Japan
3. 学会等名 Joint Art History Seminar Kyoto University - Vienna University (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 筒井忠仁
2. 発表標題 「若き日の又兵衛 - 前半生の活動と作品 - 」
3. 学会等名 福井県立美術館 (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 通知忠仁編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 592
3. 書名 仏師と絵師	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------